



通俗傳道
の正書
神の子
改題

東京

正教本會編輯

活ける上帝の子

四十二年四月 補訂第四版

259
257

020237-000-3

特17-90

活ける上帝の子(ハリストス神の子改題)

水島 行楊/著

補訂4版, 初版31.
M42

ABI-0040



ハリストス神の子 活ける上帝の子

摘要

主イエス、ハリストスと其父。

明治 19 4 30 内容

頁數

一、ハリストスは、何者なるか。……………三

二、活る上帝——唯一の上帝。……………六

三、活る上帝の子。……………八

イ、ス、ハリストスの上帝たる證。……………十一

一、聖徳の神靈、——無罪と完全。……………十二

二、大能力、——奇蹟及び感化の勢力。……………十五

摘要

- 三、預言、—— 舊約の、及びイ、ス、ハリストス 自らの。……………二十二
- 四、至聖 童女よりの 降誕……………二十五
- 五、ハリストス 死より復活……………二十八

下

天に在す父の啓示……………三十二

上帝の子は又人の子、即ち二性一位の事……………三十四

以上



通俗正教 傳道小書 活ける上帝の子

我等の主イ、ス、ハリストスは 何者なるか。

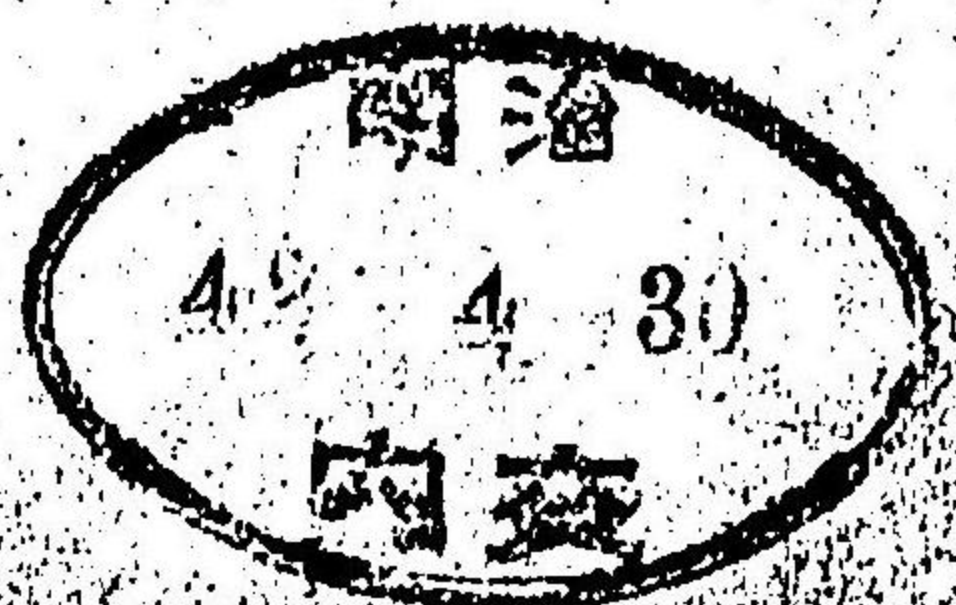
「ハリストスは 何者なるか。」

「イ、ス、曰ク、人人ハ 我人ノ子ヲ 謂テ 誰ト ナスカ。」

汝等ハ 我ヲ 謂テ 誰ト ナスカ (新約全書マコトフエイ十、六章の十三、十五節)。

此は私共の信ずる教の教祖なる主イ、ス、ハリストスが、或時試みに門徒ら

に向つて、お尋ねになつた言であります。其時は今より凡そ千八百七十餘年の昔で、所はガレリヤ國ケサリヤのフリップと申す町の邊りでした。彼れの人格は爾來二



上

三

十世紀の今日に至るまで、西は歐羅巴から亞米利加にも、東は我が大日本から支那印度、其他の國々にまで、多くの人々に論せられてあります。此まで東洋で尊んでゐた孔子は、自分から此様な問ひを持ちだしたことはありません。釋迦が死んでから茲に大約二千四百五十餘年になりますけれども、又此やうな問題となつて世界中にまでは響きません。其外何れの宗派の祖師でも、如何なる此世の英雄豪傑と云はれる人でも、其地上に生きてゐるときは、随分やかましく持囃され攻撃され評論されたりしますけれども、其一たび地下に這入ると、後は音も香もない様になるのは、世の常ですが、只獨り「ハリストス教」の教祖の上に付てのみ、斯く何時までも盛んに尋ねられ、やかましく云はれるのは、どういふ理由でしやうか。即ちここが「ハリストス教」を立てた教祖の人格がはるかに餘の者と異つて、大に尊く、且つ趣味のある所です。あの孔子は叔梁紇と云ふ人の子で、あたと云ふことはたしかです。又釋迦は首圖陀那と云ふ人の子ちやと云ふともよく分つて居ま

す。其他皆人間の子です。故に今更彼等が、人であるか、ないか、何であるかと云ふとを論ずるの必要もありません、所がイ、ス、ハリストスには、世の常の父がなかつたのです、而して其言や行の状況が、どうしても通常の人とは思はれぬのです。そこで彼が世に顯はれた當時から、人々はいろくくに評し合ひました。或者は預言者であると思ひ、或者は大聖人と思ひました。けれども此等はまたぐ、其實に當りません。因て主イ、ス、は試みに門徒方の意見を御尋ねになりました。するとシモンペトルと申す熱心の御弟子は先づ口を啓いて、左の通り答へました。

『汝ハハリストス、活ル上帝ノ子ナリ』ト（ルカ九の廿、マト）。

此こそ眞に主イ、ス、の誰たるをたしかに認め當た言であります。故に主は大に御満足なされました。ハリストスと申すはギリシヤの國の言で「膏を傳らる者」と云ふ意味です。此はエツレイと申す國の古い禮式で、預言者又は司祭長若くは王と云ふ重き役に就くのには、其前に其位に在た人から、首に膏油を傳け

られるとで ありました、即ち 上帝の 恩寵を 降される 印で した。其處で 私等の 救祖
 は 一人で 此三つの 役を 兼て 居ました から、之を ハリストスと 申されたの です。
 又此に イ、ス、といふ 名を 添へたのは、此も ギリシヤ語で 救世主の 意味を 表は
 す 爲です。此等の 名は 皆 天の 父の 御旨に よつて 附けられました。而して イ、ス、ハ
 リストスは、是までの 人間たる 王や 司祭長や 預言者と 違ひ 御自分が 上帝であるか
 ら、其務めの 権と 力は、大に 是までの 者に 立超て、至高く、至全き 者でした、故
 に 其門徒は 只 ハリストスと 云はずに 『上帝の ハリストス』と 申しました (ルカ九。即
 ち 上帝から 遣はされた 「メシヤ」 (油つけられた者) 上帝なる ハリストスと 云ふ 意味
 であります。

二、活る 上帝——唯一の 上帝。

茲に 上帝と云ふのは、世界の 始め、始め無きの 始め、限り 無く、終りも 無き 大原因者
 たる 上帝を 云ひます。言ひ盡されぬ 智慧と、力と 恵みを持て 居る 者を 指して 云

ひます、神道や 何かで 此まで 神々と 申して 居たのとは 大に 違ひます。神道の 神は、此
 様な 絶対無限の 上帝ではない、只 人の こと です、此世で えらい 人に 對する 尊稱であ
 ったと 云ふとは、先づ 普通の 知識に 照らしても 明か です。且つ 近年 歴史學者など
 の 神代を 上代とした 説が あつたばかりでなく、昔の 物徂徠なども、我國の 古代、人
 を 神と云つて 居たことに 付て、開けた 説を なして 居ました。眞の 上帝は 唯一の 唯
 す。聖書に 『唯一ノ 上帝ノ 外ニ 他ノ 上帝ナシ』 (コリント前) と云ふ 如く、決し
 て 二つと ありません。其に 上帝が 百も 萬もあると云ふのは 皆 眞でない 者を 間
 違つて、人から 上帝としたの です。人を 上帝としたり、日や 月を 拜んだり するのは、
 まだしも ですが、世の中には 畜生や、鳥や、蟲や、木や、石をも 神棚に 祭て 拜む 迷信
 も あります、甚だ 宜しくない ことです。要するに 此等は 皆 死んだ 者です、たとひ 活
 てを つても 上帝たる 働は 少しも ありません。そこで 正教の 眞の 上帝は 此等の 死ん
 だ 上帝に 區別して 『活ける 上帝』と 申して あります。活てをる 上帝で、自分に 生命

を以て居る上帝ですから我々人間を造り之に生命を與へて下さったのです。天も地も日も月も皆此上帝様が御造りになされたのです。故に又聖書に『我等ハ一ノ上帝父アリ、萬物彼ヨリシ、我等彼ニ歸ス、又一ノ主イ、ス、ハリストスアリ、萬物ハ彼ヨリシ我等モ彼ニ歸ス』と申してあります(コリント前八の六、六)。

三、活る上帝の子、——唯一の主と聖三者の事。

イ、ス、ハリストスは誠に上帝の子です、即ち上帝です。此は前申す通り、上帝は只一つであるけれども其位が三つあります、即ち父と子と聖神で、此三は其性に於て一つで、全く互に離れるともなく、何れが尊い卑いと云ふ隔てもありません。此は「ハリストス教」の極奥深い定理で、なかく人間の限りある智慧では充分に分りませんが、一寸たとへて申さば、私等の靈魂に、智慧とか情とか意旨とか云ふ三の働きがあるけれども、三の靈魂ではない、つまり一の靈魂に相違ないや

うな者です。而して茲にハリストス活る上帝の子と云ふのは、即ち主イ、スは上帝の本性の「ひとり子」で、右至聖三者の二番目の位であるを云ふたのです。二番目と云つても只名稱の順序をいふただけで少しも優劣は有ません。イ、ス、ハリストス御自分に『我ト父トハ一ナリ』と申されてある通りです(イオア三の十)。

「ハリストス上帝の子」を認むるとは、我々の信仰と倫理の基で、救ひを望む者は必ず之を認めなくてはならぬ大切な定理です。世の中には彼を上帝の子と認めずとも、我は只上帝を信するから其でよいと云ふ様な人もあるようですが、此は未だ至らぬ話です。眞に上帝を信する者は、必ず又ハリストスの上帝の性を認めなければなりません。我々はハリストスに因て上帝の旨を明かに悟ることができ彼を中保として上帝、父と和睦することができるので、誰か智さへあればよい情は不必要だと云て若其様な人があつたならば是完全の人と云はれましやうか。此

等のこの信仰に付て聖書に『**誑ル者ハ誰ゾ、イ、ス、ノハリストスタル**ナ認メザル者ニ非ズヤ。、。凡ソ子ヲ認メザル者ハ、父ヲモ有ダズ、子ヲ承認ムル者ハ、父ヲモ有ツナリ』と録してあります(イコ二二三)又我々が倫理の行ひに付ては『**汝宜シクイ、ス、ハリストスジ意ヲ以テ意トナスベシ**』と教へてあります。若しイ、ス、ハリストスが上帝でなかつたならば、斯教は全くありません、よし有りとしても、只無力無味な現世の一空言たるに止まり果して何の役にも立つ者ではありません。それが夥しき世の迫害に勝ち世界の**大勢力**となつてゐるのは果して何故でしやう。是れ外ではないイ、ス、ハリストスは彼自身に**實力**です、彼自ら救の**大能**です。其處でハリストス活る上帝の子即ち彼自ら上帝であるてふとを調べるのは、我等の爲めに甚だ**大切な務**では有ませんか。

中

イ、ス、ハリストスの上帝たる證。

主イ、ス、ハリストスが上帝の子即ち上帝であると云ふとは、何に據つて認められる乎と云ふ質問に對しては、其門徒パエルと申す大聖人がローマ人に用ひた書の中に言て居ることが**丁度之に答へた様**です。即ち

『上帝ガ昔其諸預言者ヲ以テ、聖ナル書ニ於テ許約セシ福音、其子、即チ肉體ニ依リテハ、**ダビドノ裔**ヨリ生レ、聖德ノ碑ニ依リテハ**大能**ニ於テ、死ヨリ復活スルヲ以テ、上帝ノ子ト顯ハレシ者ノ(福音)』(ローマ書一の)。

即ち**聖德の神靈**と**大能力**と、**舊約の預言**と**處女からの降誕**と、**死よりの復活**

と此五ツの事を以て明かに上帝の子であると云ふとを證據されて今や確定になつてゐるとのことです。今私らも主イ、ス、ハリストスの上帝性を證明するのに大抵此らのことから考へて見ましやう。

一、聖徳の神靈、——無罪と完全。

聖徳の神靈、即ち主イ、ス、ハリストスが諸信者に賜ひ、及び自らは勿論共にせらるゝ、至善なる光榮なる聖神は、主が上帝の子たる品位を明かに顯はします。彼が聖徳の著しき、最も美しきとは、先づ其全く罪のないこと、總ての人性に於て完全で圓滿だと云ふことです。凡夫は固り聖人とても全く罪なくして世に立つ人は一人もありません。然るに主イ、ス、ハリストスは全く罪なく、一片の過もありません。主は或時イウデヤ人等に申されました、『誰カ罪ヲ以テ、我ヲ責ルカ』と。其處に誰一人も彼に罪ありと云ふとを答へ得る者はありませんでした。又悪黨の証告に依りて、彼を裁判したピラトと申す役人は大勢の前で『我ハ

此人ニ何ノ罪アルコトヲモ見ズ』と白して、全く無罪を證據しました。主の右に掛つた盜賊も『此人ハ何ノ惡ヲモ行ハザリキ』と云ひました(廿三の四)。最も大惡人たるイウダさへ『我ハ罪ナキ人ノ血ヲ交付シテ罪ヲ犯セリ』と云て大に悔いました(廿七の四)。此様に、味方でもない、敵や惡人さへも、罪の無者は、どこまでも罪ないとしてゐます。此姦惡の世界に人間として罪のない者は誰一人もない、其中に只一人主イ、ス、ハリストスのみ罪も汚も一點も無つた。此上帝でなくて何でありましやう。即ち至淨き聖神は、彼と共にして、其上帝性を明にしてをる所です。

支那の程子と云ふ人は『天下に完人が少し』と申したさうですが、少し所ではない、聖書には上帝の前に完全の人は一人もないとを言てあります。只イ、ス、ハリストスは少しの曇りもない貞潔と微塵の偽りもない溫柔謙遜と、とても測られぬ寛大と勘忍と、何處にもならびなき勇氣熱心と、かぎりのない慈

愛と其他 人間に あらゆる 善徳 美行を 悉く 一身に 併せ持て 居りました。此 書と 教會の 活た 歴史に 付て、イ、ス、ハリストスの 事を 調べた 人の 異口同音に 大に 驚き 非常に 讚歎する 所であります。全善と云ふ者は、上帝だけです。其が 今イ、ス、ハリストスに 此徳のあるのを見るのは、これぞ 全善の上帝が形を藉りて 人間の中に 顯はれたのでなくて 何でありますやう。此れを 全善の 聖神が彼と 偕にして 其上帝たるを 證明する者です(マコ三十二) 此 聖徳は 獨りイ、ス、ハリストスの 一身に 顯はるゝばかりでなく、其餘 澤は 延て 又其 門徒等にも 顯はれて おりますが、勿論 人間は 時に 過ちを 免れぬ者ですから、信者の中にも 間違つた人が ないではありません。けれども 信者の中に 多少 悪い者が あつたからとて、直ちに 其教を 悪いとする日には、彼の 坊まで 盜をする、人殺しをする 佛教の如きは 今や 大悪教となりましやう、けれども 人は 人、教は 教、之を 一所にしては なりません。殊に どちらかと 申すと「ハリストス教」信者の中には 大悪をなす者は 至つて少

い。時には 全く 無實の 訴にかゝる者も 往々あります。兎に角 古來 一般の 信者は 罪を 厭ひ 慾を抑へ 靈を 立派に守るやう 熱心して 居りました。兎漢も 義人となり、妻婦も 聖女となつた 例は 教會に 枚擧にたへぬ程 あります。是 皆ハリストスが 上帝たるに 由て 彼らに 賜はる 所の 聖神の結果で あります。而して 終に 人の 善惡に 論なく ハリストスの 無罪 潔白、完全 圓滿の 其聖徳 盛善は、よし 不信の人でも 公平に見たならば、感服せぬ 人は ありません。

二、大なる能力、—— 奇蹟 及び 感化の 勢力。

奇蹟若くは 休徴 又 異能とも 申して、とても 人間の力では 出来ぬ 不思議なことであります。イ、ス、ハリストスは 澤山 此 不思議なことを 行ふて、已が 上帝の子たるを 明されました。即ち 或時は 水の上を行くと 陸の如く、大なる 嵐を鎮め、盲に直ぐ 見ることを 出来させたり。啞に 物を言はせたり、長年の 大病人を 一寸なで、全快させるなど、其 不思議は 聖福音經に 明かに 述べて あります。尙 其外にも 多くあ

て一々おげられぬと云ふ程です。此皆上帝の力(ロマ十五)イ、ス、ハリストスが上帝の子たる大能力です。人間の救の爲には肉體ある人體を持たねばならぬから、彼は人體を御取りなされた。そこで人體ある者が、どうして上帝の子と認められるか、かうなると何か別に其印がなくてはなりません。上帝の印なくして、只理もなく信せよと云ふやうな無理は申されません。其で主は御自分に「若我レ、父上帝ノ事ヲ行ハズバ、我ヲ信ズル勿レ」と申されたことがあります(イオアン福音十の七)然るに彼が大勢の前に水を他人に汲せて、何の用意もなく突然之を酒に變化したり、五つのパンと二尾の魚を五千人餘の大衆の食として腹一杯に飽せたり、死者を復活させたり、其他前申すやうなことをなされたのは、是れ上帝の行ひでなく何でありまじやう。然ば主イ、ス、ハリストスも自ら「我ノ我が父ノ名ニ依テ行フ事ハ、我が爲ニ證ヲ作ス」と申され(イオアン福音十の二十五)嘗てイ、ス、ハリストスの十字架の下に立て、彼を嘲てゐた所の百夫長等も、彼が死

る時の奇蹟を見て忽ち主を讚揚して「此レ誠ニ上帝ノ子ナリ」と申しました(マトフエイ廿七の五十四)。

斯く申すと世の中には其はよいかげんなことを作つたのだらうと云ふ人もあります。成程水を知らぬ夏蟲には今此の動く水が堅く鐵の様になると聞けば、よいかげんなことと思へるかも知れません。けれども理の上にはまだ理があります。それから何も己が利益にならんのに、財産や生命までも掛て詭り事を證據する愚者もありません。イ、ス、ハリストスの奇蹟は聖なる歴史と上帝の爲に生命をさへげて證明した多くの聖人と義人に依て、確定な事實となつて居ります。或は天理教會にも金米糖のふしぎがある、耶蘇教のも逆門教會の御利益位な話であらうと云て、ひやかす人もあつたやうですが、こんな無學無法の淫祠などと全く清き、世界始つて以來の大聖者たるイ、ス、ハリストスと比べられては、言語道断で話にもなりません。又不思議と云へば釋迦もする、弘法大師もする、彼も上帝の子か

と云ふ人もあつたやうですが、彼宗教では自ら上帝はない、釋迦は上帝ではないと説てをるのですから其で宜しいでしやう。尙よく聖書をしらべて、公平に教を考へて御らんなさい。螢と星は同じ者でないと云ふよりも、尙大に差違のあつたことを悟られます。釋迦も弘法も人間です。諺に弘法も筆の誤りといふ通り人はどうしても誤を免れず人の力はどうしても足らぬ所があります。それで人間がどうして聖書に在るやうなふしぎなことができまじやう。人間で勝手にふしぎができると云へば、手品師が前に用意して舞臺の上でするか、山師が一升徳利の中に罎を入れて御幣を動かすやうな類か、又は當然の理でできることを其時分人智の開けなかつたのに附込で、人を欺くか、或は己が利慾の爲にうそを吐て廻るぐらゐの類で、とても文明の時代開化の國民に行はるゝことでは有ません。上帝に由て行はれる眞の奇蹟は、決して右やうな者ではありません。而て茲に認むべきは、其奇蹟はつまり皆善の勢力です。少しの罪汚れもない清い善徳の者

であるから、凡人のできぬ不思議もできるのです。此信念は他の異教時代にもありましたが、乃ち列子といふ書物に仙人がいろいろな不思議を行ふたことが見えてゐますが、其原因を至誠至善に歸してをります。故にイ、ス、ハリストス、即ち至誠至善の上帝が不思議を行はれるのは固り當然のことで、其奇蹟は何處でも公明正大に行はれて、皆人の救ひ(助け)の爲に行はれてをります。例へば自分は己が生命を以て人に代り助ける爲です。故に、我身の十字架に釘付られた時は、をとなくして釘も打たれ、さんぐの苦みも受ましたけれども、敵の一僕が其取れたのをば隣で直に之を癒してやりました。其他皆此類です。どうしてなかく世の淫祠偶像の山師など、同日の論ではありません。(イオアン福音十八の十一、十二)。
時に又或人は耶蘇宗では昔の不思議ばかり云ふて、今一向不思議がないのは味ひがないと、咄く人もありますが、今でも敢てないわけではありません。たとへば、タグリツの聖スオドシイ、サロフの聖セラフム、最も近くはクロンシタトの長司祭、イオ

アン等の奇蹟は著しい者です。併し奇蹟と云ふ者は上帝の御旨にあるとて、上帝が必要と認められた時代には、いくらでも行はれます。必要でないと思召す場合は、決して行はれません。同じ主イエス、ハリストス御在世の時に生れ合せても或町には行はれて、或外の町には一向行はれなかつたやうな者です。今でも熱心で正直で罪のごく少ない人が有て、其人の救の爲に必要であつたなら、上帝は奇蹟を行ひ給ふともありますが固りいと尊いとでありますから、とても世の中の観せ物か何かの様に『左ア此からふしぎを行ふから皆さん見て信じて下さい』といふ様な安賣は致されません。いと尊い奇蹟は只信仰と敬虔の空氣が豊かな地方に、今でもすいぶん行はれますが其よりも今は又別段の奇蹟があります。奇蹟と云ふは何も物体のとはかりではありません。主が宇宙間の人類と同じ形を以て只一つ異なる品位を以て全世界の人類に大なる善の感化を及ぼしたのは、固り其上帝たる大能力で、つまり一の奇蹟であります。主イエス、ハリストスは、

デヤのやうな鎖國的頑民の間に育ちながら、どうしてあのやうな公明不偏なる大思想を持ち且つ善く之を實行する事ができましたか。實にイウデヤの古代外國人を敵とするとは今日の我が排外熱よりも幾層甚しい世の中に在て、少しも其狭い迷ひに染まず、敵も外國も悉く之を隣として、高尚な愛を教へ、萬世萬民の爲に惟一無二の道德の理想となり四海八筵に偉大なる感化を及ぼしました。フランスのウォルテルはハリストス教大反對の人でしたけれども、此明かな事實は斥けるとが、できませんでした。其言に『凡そ世の賢人哲學者たちは其居る所の土地の風俗習慣に強い感化を及ぼしたけれどもイエス、ハリストスの感化は全世界に王となつて居る』とあります。もしも靈魂を明くして無形なる不思議を求めらるなら、今の教會にもたくさん見られます。即ち我が大和民族の様な恐ろしい熱力を以て、基督教は國体を害するとか不敬だとか絶叫して妨害を企つる國民の中にも上帝の福音は恐れず傳へられてゐます。其他心の暗い人が、忽ち真理

に明るい信者となり、頑固な敵も忽ち主を認めて熱心な門徒となり、死に瀕た病人の救はる、等、其他皆イ、ス、ハリストスの上帝たる大能力に基く者であります。

三、預言、——舊約の、及びイ、ス、ハリストス自らの。

預言とは未來の事を前以て知て云ふとて、此亦上帝にのみできる事です。人間では僅かに此天地に定てをる理を推して明日は雨がふる、今年は作物がよくでさる、銀が下る、米が上るぐらいのとは一寸分ります、又其から段々學問のある人は今年の何月幾日何時何十分に日蝕があるとか、來年の何月幾日に月蝕があるとか云ふとも分る。けれども理を以て推すこのできないとは、とても分らぬ。たとへば今から何百年の後何國の人が何國の支配を受けるか、何年間擧となつてゐて何時釋されるか、何な人物が、何の方角から出て何な事をするかと云ふやうな事は分りません。又何時まで俟た所で人力で出来る業でない事を預

言したとて應ずるわけもない様です。所が「ハリストス教」の舊約と申す經文には多く其やうな、其よりも尙ふしきなどが云ふてあります。先づ主イ、ス、ハリストスの身の上に付て申せば、彼が何時頃生れるか、何の國の何處に生れるか、誰から生れるか、其生れは通常の産でなく、とても人力で出来ない大奇蹟である事(次の四項に詳)、成長して何な事をするか、其死ぬる有様はどうであるかなどと精しく云ふてあつて、何百年何千年前に預言してあつたことが皆よく彼主の身の上に應ふて居ります。前申した主がいろく奇蹟を行ふと云ふとも遙か前に知らせられてあります。其精しいとは、主イ、ス、ハリストスが惡徒イウダに賣られるのに、其價銀三十シクリと云ふとまで云ふてありました。(シクリは猶太の銀貨で、我が六十一錢五厘餘にして三十シクリは我が十八圓四十七錢餘に當る、即ちイウダで奴隷を賣る直段です。)其から主御自分にはイエルザリムの町の未來から御門徒の運命などを、たしかに預言されました。今でこそ此やうに世界萬國に澤山の信者がを

りますけれども、其千八百七十年の前少しの御弟子の外、西洋にも東洋にも一人の信者さへない、しかも嫌はれ、悪まれて、攻られたり、殺されたりして、なかく、小さな一國にも弘まりさうにもない時に既に、全世界四方に弘まって盛になることを申してゐられました。是皆全知の目です、上帝の目は見えぬ時なく、知らぬ所はない、而して主イエス、ハリストスが其身の上に古への預言が悉く應ひ、且つ自らたくさん預言されたのは、即ち上帝父の遣はされた子であると云ふ確かな證據であります。

此様に申すと、成程其預言は、よく合ふてをるが、大方舊約と新約とは相談して出来た者であらうと疑ふ人もあります。けれども舊約が新約よりもはるか前に出来たと云ふとはかねてハリストス教の反對なるイウヂヤ人らも、たしかに信じてゐます。彼らは五大洲に散在して舊約のはるかに新約よりも舊いとの證人です。既に泰西文明の列國に於て其預言の方が何千年何百年昔にあつて、新約の事

實は後から顯はれ出たと云ふとは支那の五經が四書よりも前にでき、日本で古事記が一番古いと云ふよりも、また確かに定つて居ります。又若も何人が舊事記の方が大日本史より後に著はされたといふならば、苟も教育あり多少物を知てをる人は之を笑はない者はありますまい。其通り舊約の方が新約より後に出て来たとか、互ひに相談して作つたとか曰ふのは、只一場のお笑ひ草に過ぎない話です。

四、處女よりの降誕。

尋常夫婦の間に生れた者は人間の子と云ふとは分り切てをる話ですが、主イエス、ハリストスは、最初一寸申した通り、此世の父がありません、母だけです。其母は即ち至聖處女マリヤと申す至て潔き人でした。世界廣しと雖も外に父なくして生れた者は一人もありません。俗に「親父なし子」と云ふのがありますけれども、此は父がないのではない、あつても日蔭の身なのです。若しも不義に因て生れた者

なれば必ず其父母の罪病が子に傳はりますから、とても全世界萬世の救ひを爲たり萬民の大教師と仰がれたりするやうな善美な者にはなれません。主イ、ス、ハリストスは全く上帝が何事もできぬとはないと云ふ御力を以て聖神の働きに依て、此いと淨き女の血を籍りて、御生れさせられたのです。決してあの古事記に云ふてあるやうな勢夜陀多良媛と申す美人が、丹塗矢に合て一女子を生たと云ふやうな話では、ムりません。此媛にもつまり美和之大物主神と云ふ(實は神ではない)男があつたのです。こんな昔話には我日本人ですら、知らぬ人が多いです。其は何もハリストス救世主の如く全世界の大問題となるやうな深い意味がないからです。又支那では夏后氏の世に、二匹の龍が降つて、蔡を垂れた、其蔡が周の世に化て龍となつて其龍に或童女が遇ふて孕んだと云ふ話もありましたが、たはいもないとです。そうして未開の世にはこんなじやうたん見たやうな話がありますけれども、固より少し開けた世には唯一人も信する者はありません。

せん。皆人は忘れてゐるぐらいです。所が主イ、ス、ハリストスのは年を経れば経るだけ、世界に廣く信せられて今や世界中に此夫なき童女より生れたイ、ス、ハリストスを信する者は大約五億萬の多人數であると申します。我が國でも、もはや十萬人以上あると云ふとです。尤も天理教の百萬人といふのに比べるに至つて少いですが、けれども其は瓦や石ころに比べて純金の少いといふ様な者です。其純金なるハリストス教にして尙斯の通り進歩しつゝ、あるのは、是れ皆全能の上帝の力です。全能の上帝は世界の一番初めには父も母もない所に人間を御造りになつた。して見れば今母だけある所に其子を生せるのは、全能者には何もむづかしいとはありません。聖書に救世主御降誕の福音を傳へた上帝の使が至聖童女マリヤに答へた言を考へて御覽なさい、其言に『聖神、汝ニ臨ミ、至上者ノ能、汝ヲ蔽ハン、故ニ生ム所ノ聖ナル者ハ稱セラレテ上帝ノ子ト稱ヘラレン、……蓋シ上帝ニ在テハ凡ソ其言フ所能』

ハザル コト ナシ』と申されて あります(ルカ福音一の二三、五、廿七) 此種なくて 生れた者は 實に 上帝の子に 相違ありません、必ず 此れは 上帝で あります。

五、ハリストス 死より 復活の事。

上帝の子ハリストスは 死後三日目に 復活されました。世界 萬民の 罪を 自分一身に 引受て、大勢の人々の 上に 降るべき 苦みを 御一人で いさぎよく 御受けになり、十字架に 掛けて 死んだ 主イ、ス、ハリストスは、眞に 死で、墓に 葬られ、敵から 封印まで 付られて、多くの 兵隊に 番を されたのです、けれども 三日目に 復活されたとは、實に 基督教會の 一大勢力を 得て 存立する 所以で あります。是れ 實に 一回、主を 棄てた 怯夫も 立ち、隙間の 風も いとふ 少婦も 死を見ると 歸するが 如く、元氣に ならせた 所の 大事蹟で あります。世の 初めこのかた、死だ 者は 死ぎり 人間の 力では、一回 死だ 者が 活出たと 云ふ ためしは ありません、いかなる 英雄 豪傑も 死に 勝つとは 出来ぬ。サムソンも 死んだ、ナポレオンも 死んだ、ウエルリントンも 死んだ、

の 始皇も 不死を 期して 遂に 死を 免れなかつた、豊太閤も、家康も 皆 死だ。其が 主は 一旦 釘たれて 槍で 突れて、いよく 死だのを 確められて、嚴重に 埋葬された 者が、自分で 活出るとは、是 上帝の 力を 除て 外に 説明すとは 出来ません、尤も 主イ、ス、ハリストスの 死んだのは 上帝の 性ではない、上帝が 死ぬると、いふとは、ないから、即ち 人の 性です。が 此 死だ人體が 甦たのは、全く 其共に してをる 上帝の 性の方です。而して たとひ 其道理は 解せぬでも、此事は 不信者の 歴史家も 證明し、敵敵も、「此事實の有たただけ」は 認めて あります。信徒に 於ては 第一、マリヤ マグダリナの 見證、次に 聖使徒 ペトルと イオアン、其他 諸門徒の 見證、遂に 五百有餘人の 信徒らに 現はれて 確證されました(コリンフ前)の 卅五の六) 即ち ハリストスの 復活は 歴史上、少しも 疑ふことが できない。若も 之を 疑ふ時は、「ハリストス教國」千八百年來の 歴史は何も 分らない者になつて しまひます。何より 世の 初めこのかた、如何なる 宗教も、如何なる 學術も、如何なる 國民も、帝王も、曾て 受けたと ない 大審遂に 堪へて、今

に立ち且つ成長してをるのはハリストス復活の證據です。そこでハリストス復活の事實に付ては、もはや縷々と長談議いたしません。只復活の必ずできるてふ道理を考ふるには復活よりも初活の事を思ふて見るがよい。世界の初め生物は何一つもなかつた、此土、即ち無生物で人間の體を造られ、之に生命の氣を與へて活た人間としたのは、誰であるか。上帝は實に此先祖の、初活の主であるのかと申すと道理ではそんな様なもんじやが、どうもあまり不思議で信せられぬ、いそがしく上帝が今我等の目の前で、死人を復活させるか、何か一大不思議を現はしたら、我も直に信する、人も皆信者になるだらうと云ふ人もあります。けれどもこんな注文はだめです。聖福音經のハリストスの御諭の中に『モイセイ及ビ預言者ニ聞カズバ、タトヒ死ヨリ復活スル者アリトモ信ゼザラン』と云ふてあります(ルカ十六の十九の)。若も此様な人に上帝が奇蹟を行ふて見せられたならば其人は之を妖術とか魔法とか曰ふまでせず、とても本統の信仰には至りませ

ん却つて罪を増すのみです。心に一片の信仰も無れば、不正直で、疑ひ深い、慢心と來ては、たとひ如何な大奇蹟があつても無益です。上帝は多數の人の靈魂の爲に利益となれば、どんなとでも致されまじやうが、利益とならねば、人からいくら注文しても行はれません。其よりも聖書と教會の教を善くしらべて見るが肝心です。私らは此光明なる復活と云ふ一事だけでも、ハリストスの上帝たることは、確信致します。此のハリストス復活に付て大使徒パエルの堅固なる宣言を茲に引きまじやう。『若シハリストス復活セザリシナラバ我等ノ傳フル所空シク、爾等ノ信仰モ亦空シ。且ツ我等ハ上帝ノ事ヲ安證スル者タリシナラン、……然レモ今ハリストスハ死ヨリ復活シ、死セン者ノ中ニ初實ト爲レリ』(コリント前十五の)。まアこれだけでハリストスイハスハの上帝たることはたしかでしやう。其でもまだ説を作して信用せぬ方は仕方がない様ですが、まア眞理を愛する人は己が心の戸を閉ざすに、自ら故らに光を受

けぬ様な事ことでなく、でくるだけ善よく研究けんきゆうしてごらんなさい。茲こゝにも一つ真理しんり、ハリス
 トスが復活かくわつしたのは實じつに萬民ばんみんの爲ために死しより復活かくわつの初はじめ、魁さきざりとなつたので、我われらもハ
 リストスを信しんじ、其功徳そのくどくに與あつかる所ところの洗禮せんれいを領うぐれば乃すなはち一旦いつたん死しんでも其靈魂そのたましい
 の不死ふしは勿論もちろん末すえの日に身體からだも復活かくわつして永遠えいゑんに福樂ふくらくの生命いのちを享うくる事ができる
 のです。

下

天てんに在います父ちちの啓示けいし。

『イ、ス、答こたへテ彼かれニ曰いへリイオナノ子こシモンヨ、汝ナシチハ福
 ナリ。蓋カダシ血肉ククニクハ之コレヲ汝ナシチニ示シメシ、ニアラズ、乃スナハチ天テンニ在
 ス我ワレノ父チチナリ』(マテ五イ十)。

『我ワレ(ハリストス)ヲ遣ツカハシ、父チチガ之コレヲ引ヒカザレバ、人ヒトハ我
 ニ來キタル能アタハズ、我ワレニ來キタル者モノハ我ワレ末スエノ日ヒニ於オイテ之コレヲ復フク
 活クワツセシメン』(イオアン六)。

此この通り我われら人間にんげんの靈魂たましいは天てんに在います父ちちに引ひかれて、父ちちの恵めぐみみの導みちびきに依よつてハリス
 トス救世主きうせいしゅを上帝かみの子こと認みとめる事が出来るのです。そこでハリストスの問とひに答こたへて
 御門徒みでし 聖せいペトルが、先まきに主しゅ イ、ス、を『ハリストス活イクル上帝カミノ子コナリ』
 と認みとめましたのは、固もとより尋常じんじやうじんしん人心じんしんの推察すゐさつでないといふことは明あきかです。實じつに此
 は天てんに在います上帝かみ、父ちちの見みえすに其その人ひとの心こころを啓ひらいて、此真理このしんりを御示けいしめしになつたので
 す。故ゆゑに此このとほりハリストス救世主きうせいしゅは聖せいペトルをいと福さいはひとして此このは人間にんげんの示しめしで
 はない、天てんの父ちちの啓示けいしめしであるといふことを確たしかに申まをされました。後にマルスと申まを
 す女信者ぢらしんじやが彼主かのしゅを『我ワレハ汝ナシチガ世ヨニ來キタルベキハリストス上帝カミノ子コナ

下

ルナ信ぜり』と云たのも亦天の父の啓示です。(イコアソ十) 其他何人でも誠にハリストスを上帝の子と認めることが出来て其救ひを願ふ様になるのは、皆其通りです。若しも上帝の示がなかつたなら、我等は上帝を信ずることもできません。主イ、ス、ハリストス所か、己の何者たることも分りません。故にハリストス上帝の子を認めやうとするには、以上の如き事實上論理上の證據を考へると共に、一方に敬虔熱心にして、上帝全能者の恵みを祈らねばなりません。願くは上帝天に在す父よ、我が兄弟の心を啓き憐めよ、而して我らは一回死を免れずとも、末の日に幸福なる生命に復活せしめ給はんことを、アミン。

上帝の子は又人の子なる事。

摺筆に臨んで、此物語の初を、回想することが必要です。即ち救世主ハリストスは、上帝の子で有りながら、自ら好んで、御自分を人の子と名けられたとです。「人の子」とは、總て人間のことであるのに、何故主は斯く申さるか、と尋ねるに、此れ一は

ハリストスが自卑謙遜から出た御名稱です。又一は「上帝の子」の稱が、彼の上帝と同性一體なるを示すが如く、「人の子」の稱を以て、主の人性は、世人と同一で、眞に人間である(即ち私ら人間と兄弟である)ことを示すのです。實にハリストス救世主は非常なる奇蹟の御降生でしたけれども、其罪がないと云ふことの外は、尋常の人間と異るとは、無つたのです。而して其人の性は人の性の儘少しも變らず上帝の性は上帝の性の儘ちつとも變りなく二つの性が一つの聖位となつて救世主となり給ふたのです。斯く別物ではない、人である、人の子であるからこそ、人の身代りに立つことができたのです。而して又上帝である、上帝の子であればこそ、全世界大衆の人に代つて、限なき救の大功を立て、下さることができたのです。上帝の性と人の性と結合の必要は茲に在りました。願くは我ら罪人も上帝と人なる主イ、ス、ハリストスの功德と恩寵に依て救ひを得んことを、アミン。

(天尾)

明治卅一年七月廿八日初版發行
 卅二年五月十六日再版發行
 卅八年十月廿三日第三版發行
 同 卅九年四月廿二日第四版印刷
 同 卅九年四月三十日第四版發行

東京府北豐島郡瀧野川村大字田端
 五十番地

著作兼發行所 水島行揚

印刷者 東京市神田區三崎町三丁目一番地
 小西幸吉

印刷所 東京市神田區三崎町三丁目一番地
 日本印刷株式會社
 電本千八百四十四番

東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地

發行所

正教會事務所

電話本局二千五百六十九番

定價金四錢

257

水島行揚著作 出版廣告

再版 吾人は何故に宗教を要するか

〔全一冊、定價金 參錢
郵稅(五冊まで) 金貳錢〕

再版 慰安と悔改

〔全一冊、定價郵稅同上〕

新刊 聖大主教奇蹟者ニコライ (繪入)

〔全一冊、定價金 五錢
郵稅(三冊まで) 金二錢〕

第六版 教會須知 (本聖堂其他用)

〔全二冊、無代價
郵稅(六冊まで) 金二錢〕

繪入 神救世主畧話

〔全一冊、定價金 五錢
郵稅(三冊まで) 金二錢〕

繪入正教自修書略

全一冊

特價 金卅二錢
郵稅 金八錢

東京神田駿河臺東紅梅町六番地

正教會事務所